

医学研究センター

研究評価部門

部 門 長：赤塚 俊隆

副部門長：椎橋 美智男，伊崎 誠一

部 門 員：伴場 裕己，山田 栄一

今回も部門の活動紹介としては、業績データベースのことが中心となります。前回のこの紹介記事では、ようやく業績データベースから人事考課用の「研究活動自己評価表」がダウンロードできるようになったこと、そして学内ホームページにおいてデータベースの内容の一部が公開されるようになったこと、などを紹介いたしました。その後の進展としては、「H19年度分の人事考課をH20年度の初めには実施したい、その実施に当っては、保健医療学部にも業績データベースを導入し、医学部と歩調をあわせて実施したい」との自己点検評価委員会（委員長：土田哲也学長補佐）からの要請があり、それに間に合うよう対応を行ったことがあります。保健医療学部において業績データベースの説明会を2回実施いたしました。参加者の関心はかなり高かったように思います。実際にH19年度の人事考課が実施され、その期間中（3月11日から6月末まで）にデータベースにアクセスした件数を調べてみたところ、表1に示すように、共通部門、基礎医学部門と並んでとても高い数字でありました。この表で分かるようにアクセス率が低いのは臨床系の教員ですが、それを資格別に見ると、助教では半数弱と特に低いことが分かりました。まだ臨床経験の浅い教員の方々には、「研究」ということは自分には無縁だと受け止めておられる方が多いのだらうと想像されます。何らかの研究業績がありながら、業績データベースに自分で登録することなく、仲間が作成した「研究活動自己評価表」の氏名等を修正して提出される方もおられたようでした。表2にはデータを公開するための同意書の提出率ですが、H20年度から新規採用者には全員提出を求めることになりましたが、相変わらず3分の1の方は未提出となっています。これらの原因についていろいろ調べてみたところ、どうも臨床系の若い先生方は学内LANに接続したコンピュータを使用すること自体が少ないとか、業績を自分で集積して利用するという必要も感じておられないようでした。その一方では臨床科自体としては業績を集積することが必要で、それなりのデータベースを独自にお持ちの科が多く存在するようでした。今後はそういう状況を踏まえた上で、大学の業績データベースを少しずつ改善してより使いやすいものに構築していく必要があるように思われます。

表 1. 業績データベースアクセス率

研究業績データベースアクセス件数(3/11 - 6月末)

部門	アクセス率	
	全体	助教
共通部門	98%	94%
基礎医学部門	97%	93%
大学病院	66%	57%
総合医療センター	50%	43%
国際医療センター	64%	53%
保健医療学部	97%	100%
計	66%	54%

表 2. 同意書提出率

同意書提出率		
H18年度以前	32/79	40.5%
H19年度	113/205	55.1%
H20年度	61/109	66.0%

注1) 臨床医学部門の助教のアクセス率が低い。

注2) 業績データを登録することなく、他人の「研究活動評価表」の氏名等を修正して提出するケースも見受けられる。

注3) H20年度採用者から、採用時に人事課で「同意書」を提出していただくことになったが、相変わらず提出率が低い。

人事課によると、担当者が「同意書」と「新規登録依頼書」を渡す時に充分説明が出来ないことが原因となっているとのこと。

なお、昨年度分からのReaDへの業績データ入力は、個人で行うのではなく大学の業績データベースからまとめて移行する方式になりました。ReaDのデータベースも新機能を備え、学外の方が本学の研究活動について検索したり、そこでヒットした研究者にメールを送ったりできるようになっています。このReaDへのデータ提供作業も重要性が増している一方、それに関する情報が充分教員にいきわたっていないようですので、今後情宣に力を入れなくてはならないと思っています。

最後に前回は部門長の写真だけの紹介でしたので、今回は部門員全員の写真を載せさせていただきます。

(文責 赤塚)



伊崎



左から 椎橋 伴場 山田 赤塚